

「白馬のみらい観光税」の  
用途に関する基本方針、および用途決定組織(諮問機関)  
に関する提言

令和6年(2024年)1月  
白馬村観光地経営会議



## 1. 検討の経緯について

白馬村観光地経営会議(以下「観光地経営会議」という。)では、令和5年(2023年)7月より観光財源(白馬のみらい観光税)の使途に関する基本方針、および使途決定組織(諮問機関)についての議論を重ねてきました。

この「使途に関する基本方針、および使途決定組織(諮問機関)(案)」は、観光地経営会議で各委員から出された意見をとりまとめ、白馬村(村長)に提言するものです。

※白馬村役場では、観光財源(白馬のみらい観光税)を適正に運用するために必要な条例(白馬村観光地域づくり基金条例(仮)の制定、執行機関の附属機関の設置等に関する条例の一部改正、白馬村観光地域づくり基金事業交付金条例(仮)の制定)を整備する予定です。

### ■令和5年度 白馬村観光地経営会議の経緯

#### 《第1回観光地経営会議》

日 時: 令和5年7月18日(火)10:00～11:40

場 所: 白馬村役場 201・202 会議室

内 容: 観光地経営会議の役割

#### 《第2回観光地経営会議》

日 時: 令和5年10月12日(木)10:00～11:40

場 所: 白馬村役場 2階庁議室

内 容: 観光財源の使途決定組織(案)  
観光財源の使途に関する方針(案)

#### 《第3回観光地経営会議》

日 時: 令和5年12月14日(木)15:00～17:00

場 所: 白馬村役場 2階庁議室

内 容: 観光財源の使途に関する方針  
観光財源の使途決定組織

#### 《第4回観光地経営会議》

日 時: 令和6年1月11日(木)15:00～17:00

場 所: 白馬村役場 2階庁議室

内 容: 使途に関する基本方針(案)  
使途決定組織(諮問機関)(案)  
日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D) 講習会

## 2. 観光財源の使途に関する基本方針について

将来、観光財源を運用する際の「使途をどのように決めるのか」について経営会議で意見を出し合ってきました。「どのような範囲に使えるのか」「何を基準に優先順位を決めるのか」といった観点で、「使途の枠組み」について整理しました。

### (1) 使途の前提条件

**観光客が支払う税金であることから、観光客の満足度を最大化させ、観光客の負の影響を最小化させる事業に使うことを前提とします**

白馬村は、「世界水準の観光地」として、次世代に誇れる「持続可能な観光地」の実現を目指しています。

現在、白馬のみらい観光税として検討されている宿泊税、登山協力金、ふるさと納税は、いずれも観光客から税としてお金をお預かりし、観光振興のために財源とするものです。

そのような性格の財源であることから、「観光客（＝税を払う人）の利便性・満足度に資する事業」に使うことが前提となります。

また、同じ理由で、観光客が訪れることで生じる環境や住民生活へのマイナスの影響を抑えるための事業に使うことも前提としています。

### (2) 使途の設定

**世界水準の観光地として次世代に誇れる「持続可能な観光地」の実現のために、“白馬のみらい観光税”を使います**

白馬のみらい観光税の使途の範囲は、長い時間をかけ、多様な人が関わって策定した「観光地経営計画」の範囲内とします。

その中で「世界水準の観光地」として、今の白馬村が観光地として不足している部分を抽出し、事業効果が高いと考えられる事業に、集中的に投資していくこととします。

なお、観光客から税を徴収する際に、負担がかかる特別徴収義務者（宿泊税の場合は、宿泊事業者）に事務手数料として財源の一部を還元します。

また、課題抽出、事業の評価指標の設定や事業効果の検証に必要な調査・計画づくりにも予算を充てます。

### 3. 観光財源の使途決定組織(諮問機関)について

観光財源(白馬のみらい観光税)の導入が見込まれる令和8年(2026年)までに、現在の観光地経営会議の機能強化を行い、「使途決定組織(諮問機関)」として権限と責任を付与することで組織改編を予定しています。本年度の観光地経営会議では、各委員から出された意見をとりまとめ、新たな組織の「使途決定組織(諮問機関)」の在り方について以下のとおり整理しました。

#### (1) 目的

新たな観光地経営会議は、白馬のみらい観光税の使途を審議することを目的とした組織です。

なお、白馬のみらい観光税の使途の決定は、村からの諮問をうけた観光地経営会議が審議のうえ答申し、村が議会に予算要求をおこない、最終的に議会で議決されます。

#### (2) 構成委員

新たな観光地経営会議の委員は8~10名程度とします。観光関連事業者、DMO、村、観光局、観光協会、商工会等で構成することを基本とします。

#### (3) 任期

委員の任期は、3~6年とし、途切れなく機能することが求められる機関ですので、3年おきに半数を入れ替えます。

#### (4) 新しい観光地経営会議の役割

現在の観光地経営会議の役割を強化し、「前年度の事業評価」、および「次年度の基金事業計画」について審議するため、年間4回程度の会議を開催します。

事業評価については、「観光客の満足度を最大化」「観光客の負の影響を最小化」への貢献度を評価軸として、「費用対効果・実効性の高さ」を評価<sup>※1</sup>します。評価は、2期(夏期・冬期)に分けて行い、評価にあたっては、必要に応じて、専門家や地元のキーパーソンなどの第三者をオブザーバーとして招へいし、意見をもらいます。

なお、事業計画については、ふるさと納税の寄付者の意見<sup>※2</sup>も踏まえ、検討します。

※1：具体的な評価指標は次年度以降、検討予定

※2：寄付者より指定のあったまちづくりを進める事業等

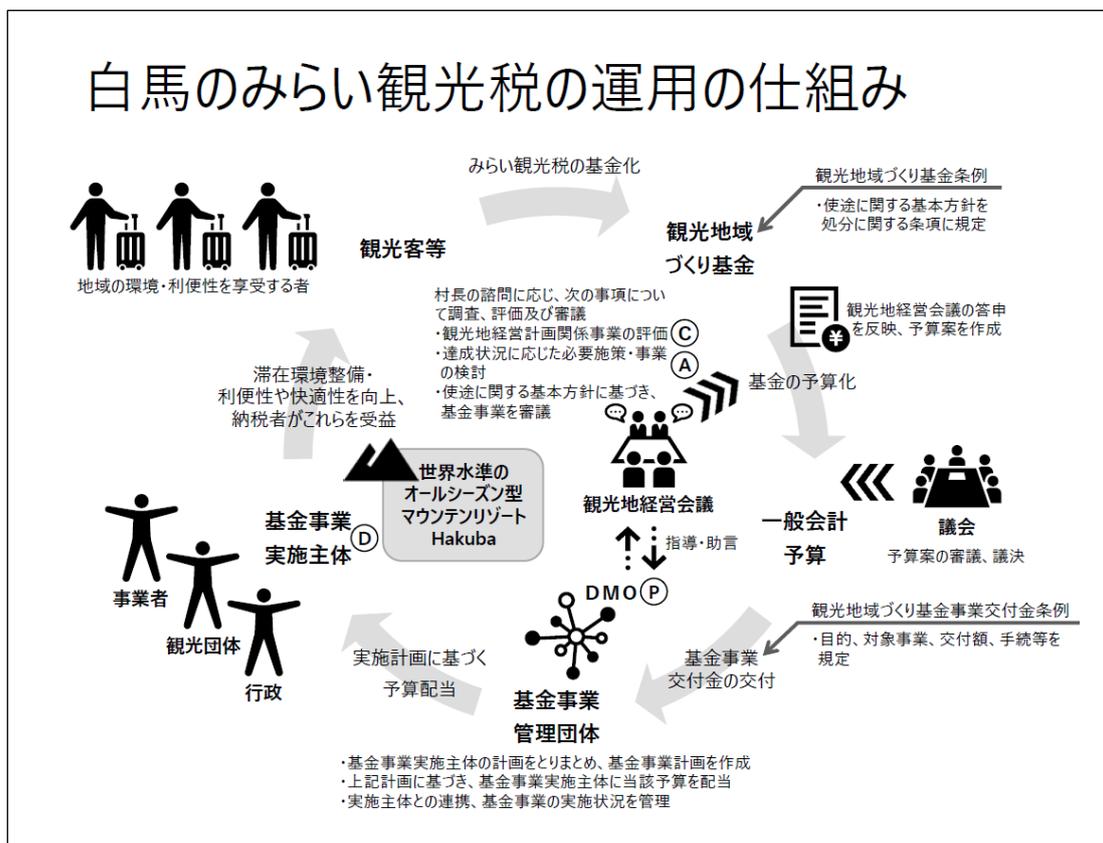
#### (5) 使途決定(諮問機関)の透明性確保

事業の効果の「見える化」に努めます。審議のプロセスはすべて公開します(聴講可能な公開の場での会議、役場のホームページ等での告知、資料公開などを想定)。

## 4. 観光財源の運用の仕組みについて

ここまで、観光財源の使途に関する基本方針及び使途決定組織（諮問機関）について整理しました。

これらを受けて、観光客等が負担する白馬のみらい観光税をどのように運用して、持続可能な観光地の実現を目指すのかを考えると、以下のような仕組みやルールに則って運用されることが望ましいと考えます。



### (1) 白馬のみらい観光税の基金化

白馬のみらい観光税は、観光振興のためのみに使われなければならないことから、行政の一般財源とは明確に区分し、全額を基金化します。そのために行政では白馬村観光地域づくり基金条例（仮称）を新たに制定し、条例に基づいて基金を管理、運用及び処分します。なお、基金の処分に関する条項には、使途に関する基本方針を盛り込みます。

### (2) 観光地域づくり基金の予算化

基金を設置目的のために処分して使用する場合は、一般会計歳入歳出予算に計上して使用することになります。この予算化にあたっては、観光地経営会議の答申を反映

し、予算案を作成し、これを議会が審議、議決する流れになります。基金を充当する事業には、観光振興という共通項があることから、各々の事業に予算を計上するのではなく、基金事業として一括計上し、予算上も観光財源を充当する予算として明確化します。

観光地経営会議は、執行機関の附属機関として、村長の諮問に応じて、観光地経営計画関係事業を評価し、達成状況に応じた必要施策・事業を検討したうえで、用途に関する基本方針に基づき基金事業を審議し、村長にその結果を答申します。

答申を受けた村長は、それを反映した予算案を作成し、議会に提出し、議会の審議、議決を経て予算化されます。

### (3) 観光地域づくり基金事業交付金の交付

白馬村観光地域づくり基金事業交付金条例(仮)に基づいて、基金事業管理団体(DMO)に対して基金事業交付金を交付します。管理団体は、基金事業実施主体(事業者、観光団体、行政)の実施計画をとりまとめ、基金事業計画を作成するという役割と、その計画に基づいて実施主体に対して予算を配当するとともに、基金事業の実施状況を管理するという役割を担います。

事業計画の作成過程では、観光地経営会議が管理団体に対して必要な指導・助言を行い、用途に関する基本方針に沿った計画内容とします。

### (4) 基金事業の実施

基金事業実施団体がそれぞれの計画事業を実施します。これにより、観光客の満足度を最大化させる、即ち、納税者である観光客等へ利便性・快適性の向上という形で還元します。

■令和5年度 白馬村観光地経営会議での主な検討事項

項目		検討事項
用途の 設定	範囲	・充当する範囲（分野）の設定
	配分	・分野ごとの配分方法
	その他	・積立ルール（例：観光リスクマネジメント） ・計画外の事象への対応（例：基金残額の10%以内）
用途の 決定 プロセス	事業計画	・事業計画の策定方法（目標設定） ・具体的な事業の精査方法（実効性の確保）
	事業評価	・事業評価の方法（効果検証） ・第三者（有識者）等の外部評価の有無
	情報公開	・決定プロセスの公開方法（透明性の確保）
組織 運営	人事	・メンバーの選定方法（分野、人数、任期等） ・アドバイザー（専門家等）の招聘の仕組み
	会議	・会議（ステアリングコミッティ）の開催方法（頻度）
	事務局	・事務局の業務分掌（事務局運営、データ共有、関係者への連絡調整等）

## ■観光財源の使途に関する基本方針、および使途決定組織(諮問機関)についての意見(抜粋)

### (1)使途の前提条件

- ✓ 使途は個別具体的な話に終始しがちだが、目的・ビジョンといったもっと広い視野でとらえるべきだ。
- ✓ 「WHAT(何を)」ではなく、「WHY(なぜ)」が必要。
- ✓ 世界水準という言葉は、一つの指針になるのではないか。世界水準とは何か。はつきり目標を決めて、それに向かって進めばいいと思う。
- ✓ 皆かつての繁栄から白馬は優れていると思ったままである。DX なども含め、観光地として遅れている点について自覚がない。観光 DX は、観光客の利便性向上だけでなく、人材不足などの課題解決にもつながる。
- ✓ 「儲からないけど、誰かがやらなければならないこと」に財源を使うべきだ。
- ✓ 子どもたちに次世代に良いものを残したい。そうすると「持続可能な観光(サステナブルツーリズム)」が重要になる。
- ✓ サステナブルなリゾートであることが「地域の誇り」の醸成につながる。

### (2)使途の設定使途の設定

- ✓ 観光地経営計画は長い時間をかけてオーサライズされたものなので、尊重すべき。その中から課題を選び出し、解決のために財源を使う。
- ✓ 仮に観光みらい税が宿泊税であれば、「我々が賄えない部分を(利をいただいた)宿泊客に負担いただく」という仕組みだ。受益者負担の考え方なので、まずは「宿泊客のためになることに使う」ことを明確にしておかなければならない。
- ✓ 白馬村は、訪問客を第一に考えた環境を作れていない。キャッシュレスなど国内・海外のスキー場に後れを取っている。
- ✓ インバウンド客にとっては、旅行自体がストレスだ。世界水準というなら、ユニバーサル化、ストレスフリー化といった視点で進めるべき。
- ✓ 一方で、観光客が来ることによる負の影響(ゴミ処理や CO2 削減など環境への負荷低減)にも財源を使うべき。
- ✓ 現在検討されている財源規模では、インフラなどの大規模な事業はできない。財源はインセンティブを与える手段として使うべきではないか。
- ✓ 納税義務者への配慮として、例えば宿が宿泊税として徴収すると負担が生じる。手数料などは支払うべきだ。
- ✓ 調査には予算があまりつかない場合が多いが、今白馬村に何が不足しているのか明確にするため調査・研究をすべきだ。
- ✓ 「通年でお客様を呼べるコンテンツの整備」をやらなければ、お客は減って、税収は減ってしまう。お客様を呼ぶためのお金に基金が使えた方が良い。

### (3) 使途決定組織の運営

- ✓ 公平さという意味で、たくさんの有識者・関係者をメンバーに入れることも大切だが、ある程度ドライブできるメンバーに絞るべきではないか。本気で考えているコアなメンバー(主要メンバー)を中心に構成すべきだ。
- ✓ 会議のメンバー(人数)は圧縮しても良いと思うが、今の観光地経営会議のメンバーはパワーのある良いメンバーだ。
- ✓ 長期的な視点で計画を進めるためには、最低でも 3 年以上、同じメンバーで取り組むべきだ。

### (4) 使途の決定のプロセス

- ✓ 開催の頻度については、年 1 回が適正ではないか。開催は年 1 回でも、評価軸としては夏・冬の評価を入れるべきだ。
- ✓ 白馬高校の国際観光課の高校生には、ぜひ経営会議にオブザーバー参加してほしい。
- ✓ 情報公開については、クローズにしないことは大切。会議は、パブリック・オープンな場にすべき。

■令和5年度 白馬村観光地経営会議 委員名簿

【委員】

(順不同・敬称略)

	氏名	所属・役職	備考
1	高梨 光	一般社団法人 HAKUBAVALLEY TOURISM 代表理事	観光に係る村内の団体等
2	丸山 徹也	八方尾根観光協会	観光に係る村内の団体等
3	松本 圭司	五竜観光協会	観光に係る村内の団体等
4	和田 寛		観光に係る村内の団体等
5	草本 朋子	HAKUBA SDGs ラボ 代表	関係行政機関、団体代表
6	伊藤 英喜	一般社団法人白馬村観光局 代表理事	一般社団法人白馬村観光局
7	中村 実彦	白馬村ホテル・旅館代表	観光に係る村内の団体等
8	ケビン・モラード	有限会社JHNTラベル 代表	観光に係る村内の団体等
9	杉山 茂実	白馬商工会 会長	関係行政機関、団体代表
10	白田 友和	八十二銀行白馬支店 支店長	関係行政機関、団体代表

【アドバイザー】

	氏名	所属・役職	備考
1	下村 彰男	國學院大學観光まちづくり学部地域マネジメント研究センター 教授	識見を有する者

【事務局】

・白馬村観光課

※資料作成支援等：公益財団法人日本交通公社